

令和3年度財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

- ① 建物……定額法(該当なし)
- ② 什器備品……定額法(該当なし)

令和4年4月、事務所エアコンを交換。設備費用 363,000円。

これを定額法6年で償却。令和4年度収支予算に減価償却費60,500円計上済。

(2) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借り主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

なお、リース物件は下記の1件である。

- ① コピー複合機(京セラ製) 令和2年4月リース開始(72回)
残存リース料 264,000円 (5,500円×48回)
リース取扱会社 株式会社クレディセゾン

(3) 消費税等の会計処理

税込経理方式を採用している。

2. 会計方針の変更

会計方針は発生主義によって計上しており、変更はない。

3. 定期預金「大和ネクスト銀行」口座について

同口座の期末残高は、9,000,000円(3,000,000円×3件)

このうち、令和4年7月14日満期の3,000,000円について、次の様に区分管理している。

- ① 一般正味財産(流動資産)として、122,886円
- ② 指定正味財産(特定資産)として、2,877,114円

財産目録には「流動資産、預金」欄に①の金額を掲載し、「固定資産、その他の固定資産、特定資産」に②の金額を含めている。

4. 財産目録「特定資産」について

特定資産 8,877,114円を担保する資産の内訳は、以下である。

- ① 大和ネクスト銀行名古屋支店 定期預金 9,000,000円の内、8,877,114円

5. 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残額は次のとおり。

(単位;円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	7,000,000	0	0	7,000,000

6. 基本財産の財源等の内訳

(単位;円)

科 目	当期末残高	備 考
基本財産 定期預金	7,000,000	大和ネクスト銀行

7. その他の固定資産について

(1) 「陶磁器意匠デジタル化積立資産」について

令和元年度に「陶磁器意匠に関するデータベースの構築および維持管理」に用途を特定した寄附金を受領し、「特定資産(陶磁器意匠デジタル化積立資産)」として区分経理した。

陶磁器製食卓台所用品に関するデータベース(保全登録意匠約8万件、下記2)は構築済みであるので、この積立資産を「陶磁器製置物」のデータベース構築に充てることとした。

(2) 「陶磁器意匠データベース(食卓台所用品)」について

当法人設立以来の継続事業である「意匠保全事業」において保全登録された意匠(食器、ノベルティ、タイル)約18万件の紙媒体データのうち、食卓台所用品約8万余件の保全登録証(控)を電子化し、検索キーワードを付したデータベース構築を行うため、平成25(2013)年3月期に、特定資産として「登録意匠デジタル化積立資産定期預金」953万円を設け、平成25・26年度事業として実施し、平成28(2016)年1月に公開した。

このデータベース構築に要した953万円を、資産管理の立場から27年3月期から貸借対照表に記載し、当該データベース取得額として「その他の固定資産」に、その見返り額同額を「固定負債」に計上している。

8. 「建物」勘定及び固定負債「資産見返り額」勘定について

「建物」勘定は、本部を置く「日本陶磁器センタービル」(昭和33(1958)年4月起工、同年12月完成)建設費の本財団負担分に関わるものであって全額償却済みだが、備忘価額として表示している。当該ビルの管理は一般財団法人日本陶業連盟が行っている。

9. 担保に供している資産

該当なし

10. 保証債務等の偶発債務

該当なし

11. 重要な後発事象

特になし

以上